

学校関係者評価書

東洋理容美容専門学校
学校関係者評価委員会

(全体評価)

「衛生を重視する職業人としての自覚と認識を深めさせ、理容師・美容師として健全な社会生活を営むために必要な態度と能力を育成する」という教育理念に基づいて、理容美容業界を担う職業人としてとしての在り方や社会人としての教養や礼儀・マナーを身につけさせることに主眼をおき、教員と外部講師による適切な指導を積み重ねにより、学校全体として一定の成果が定着している。引き続き今後とも、業界の展望をしっかりと捉え最新の校舎設備を十分活かし、さらに一層徹底したキャリア教育とカリキュラムの充実をはかってもらいたい。

定員確保について、美容科は県内最多学生数ではあるが定員には達していない。理容科は、理容師志望の学生の増加は依然見込めず募集は厳しい現状で、昨年同様に定員に達していない。特に理容業界には、お客様のニーズの多様化やジェンダーレス化などの大きく社会が変革していく中、理容本来の魅力をしっかりと伝えとともに、新しい時代の理容の可能性の追求と創造と望むところであり、理容師が魅力ある職業であると認知されることを期待する。

引き続き学校では千葉県内唯一三年間で理容と美容の両方の資格を取得できるコースを有する理容美容の併設校であること、ロンドンササースクールシップ校として海外の技術を学び、国際感覚を養う幅広い技術と教養を身に付けることが出来ること、美容修得者理容科・理容修得者美容科設置により、理容師美容師ダブルライセンスが取得出来ることなど、全課程を活かしたハイブリッドなカリキュラムをより魅力的なものとし、多くの学生が入学することを期待する。その他短期マスター、放課後セミナーは理美容業界の現場の技術・意見を積極的に取り入れカリキュラムに反映していることも大変評価できる。将来顧客満足を提供できることは勿論、時代の変化にもしっかりと対応できる質の高いカリキュラムと共に、教員一丸となり人材育成・指導に取り組むことを期待したい。

また令和5年には創立70周年を迎えるが、歴史の蓄積とともに、常に進化し続ける学校となるために真の職業教育のあり方を追求し、継続して検証と改善を望むところである。

新型コロナウイルス、甚大な被害が出ている自然災害、世界情勢の不安定など世の中が絶えず変動するなかで、理美容業界の展望、地域環境の変化を十分に捉え、理容美容を通じてどのように社会貢献できるかを考え、併せて多様化する顧客の要望に応えることが出来る人材づくり、業界変革・発展に寄与できる人材づくりを目指し、さらに教員自らが資質向上に取り組み、指導力を高めていく必要がある。

その他、広報活動を充実化するために、学習内容や学習状況、資格取得情報などの情報公開と、ホームページやSNSなどを通じて広く情報を発信し、学校の取り組みや魅力、素晴らしさを多くの人に伝えてもらいたい。

(項目別評価)

(1) 教育理念、教育目標

「衛生を重視する職業人としての自覚と認識を深めさせ、理容師・美容師として、健全な社会生活を営むために必要な、態度と能力を育成する」という教育理念、教育目標が明文化され整備されている。ホームページでの情報公開と共に学校案内パンフレットにも記載されている。職業実践専門課程における教育編成委員会の設置により、より実践的で且つ時代の変化に即したカリキュラム編成で、質の高い人材育成を求める。

(2) 学校運営

概ね良好である。教育体制の連携強化のために定期的な会議、打合せを実施し、問題点、改善点があれば常に協議し、様々な情報を伝達、共有している。継続して連携を図り良好な学校運営をすることを望む。

学生情報管理システムの導入により業務の効率化が図れている。今後も個人情報などの保護に努めつつ、学生募集管理から学籍管理、履修管理、成績評価、卒業認定、就職先までの一連の情報集約、活用を期待する。

(3) 教育活動

教育全体の学習効果を高め、カリキュラムの統制や一貫性のあるものにするため授業計画(シラバス)を明確にする必要があり、現在ホームページに公開している。職業実践訓練課程として、よりキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫のためにも、外部講師からの評価もしっかり取り入れてもらいたい。また改善方策にある「実務に関する知識・技術・技能を修得・向上するための研修」、「授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修」について、教員は学生指導と共に効率よく時間を作り実施してもらいたい。三年ぶりに開催された関東地区研修会には5名の教員が参加した。また今年度も介護職員初任者研修は実施に至らず残念であるが、短期マスターの実施は評価できる。同窓会活動を利用し、卒業生への案内も希望する。

(4) 学修成果

昨年に引き続き就職率は安定している。就職担当を中心にクラス担任と学生の個別面談やアドバイス等の支援の流れが明確で、実績につながっている。国家試験合格率については筆記試験合格率の結果が思わしくなく、繰り返し課題に取り組ませるなど苦手教科を克服する為の工夫が必要である。退学率については令和4年度については増加したが、コロナ禍での進路情報収集活動の欠如、進路選択に迷いがある中での入学で、進路変更希望による退学者が多かったようである。令和4年からは固定担任制を廃止し、全員担任制(ローテーション制)を導入し、教員全員で学生をサポートできるような環境作りに取り組んでいる。今後の成果に期待したい。

各認定資格の取得状況もよい。卒業後のキャリア形成の効果については、同窓会やSNS、各サロンや専門誌と連携を図り情報交換し、より一層学校の教育活動に反映出来るとよい。

(5) 学生支援

昨年同様「特待生制度」、「奨学金制度」が実施されたことを評価する。また高等教育の修学支援制度の対象校として入学料・授業料の減免を受けることが出来、学校独自の奨学金制度、日本学生支援機構奨学金と合わせて学生の授業料等の不安についても今後サポート・ケアしてもらいたい。

その他就職や資格取得の支援、コンテストに挑戦する学生や、遠方からの入学生に対する支援等充実している。昨年に続き令和4年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大のため様々なイベントが縮小されたが、第14回全国学生技術大会関東地区大会において技術競技において関東地区最多の8名が入賞し、大阪で行われた全国大会にも出場の学生もいた。学生と保護者のみの観覧であったが魅髪祭で技術の成果を発揮する場が持てたことも晴らしかった。また立川で行われたサスーンカットコンテスト全国大会には校内予選を勝ち抜いた27名が出場し、惜しくも入賞は逃したが健闘を称えたい。今後も学生のモチベーションをあげて、より意欲的に学習できるようなサポートを期待する。

(6)教育環境

本館の完成と、1号館耐震補強工事校舎リニューアル、令和3年の2号館校舎リニューアルにより教育環境が格段に良くなっている。新型コロナウイルス感染拡大防止に、各館の抗ウイルスコートを実施したことも評価できる。今後災害等時などに備え通信環境の強化をはかってもらいたい。また年2回の避難訓練、消防訓練を望むが、災害時用に食料と水を備蓄してあるのは、地域に貢献する意味も含めて評価できる。昨年課題であった防災防犯マニュアルが作成され、今後さらに安全な学校生活を確保するため、想定される危険や災害とその対処要領を明確にして不測の事態にも対応できるよう取り組んでもらいたい。

(7)学生の受入れ募集

進学相談会や高校ガイダンスへの参加、高校訪問を積極的に行っている。学校案内やパンフレット、ホームページなどで学校の特色等をわかりやすく伝えている。特に近年スマートフォンを活用し、専門学校の情報を収集する高校生が多いという調査のもと、スマートフォンで見やすいホームページに変更した。合わせて最新のパンフレットのイメージも刷新された。また体験入学、オープンキャンパスも数多く実施し内容も充実している。他にも遠方進学希望者の交通費サポートなど工夫を凝らし、高校生の参加人数や、来校機会が増えているように思われる。

理容科は定員確保ができなかったが、今後も競合校の動向、少子化や大学全入学、経済状況の悪化、業界の縮小等の問題を見据えつつ、定員確保に努力してほしい。特に理容の魅力、ササーンスクールシップ校、理容・美容の併設校としての魅力をアピールしてもらいたい。

(8)財務

財務は良好であり、情報公開もされている。経営を更に安定させるためにも学生募集・広報活動に力を入れて欲しい。

(9)法令等の遵守

関係法令を遵守し、適正な学校運営を行っている。セキュリティの強化や個人情報の管理は徹底事項であるので、その啓発と認識が重要である。またSNSにおけるトラブルなどにも注視し学生にも教育する必要がある。自己評価については適正に行われており、ホームページにも公開されている。学校運営の改善にも反映されている。

(10)社会貢献・地域貢献

令和4年度も実施できなかったが、定期的な募金活動、美容ボランティア、大学のヘアメイクボランティア、キッズダンス大会のヘアメイクボランティアなど今後も継続することを期待したい。

赤い羽根共同募金、エコキャップの提供、校舎周辺清掃、その他聾学校との交流、地域中学校の職場体験等も実施し、社会と地域への貢献につながっている。

(11)国際交流

イギリスのササーンスクールと英国シェフィールドカレッジとスクールシップを結んでおり、教育プログラム実施と海外研修の実施は良い取り組みだと思う。また新たにスペインのカズカーラメイクスクールと提携し、令和元年の学生海外研修では、イギリスとスペインの2カ国に渡り交流が持てたことは国際感覚を養う上で、学生にとっても貴重な経験だと思われる。令和3年度に続き、令和4年度もコロナ禍により中止となったが、今後また再開出来る事を望む。